

【宮津市】農業・観光業の配送における輸送モーダルシフト

協議会名:宮津市モーダルシフト協議会

協議会構成員

宮津市、ソフトバンク株式会社、
株式会社NEXT DELIVERY、
株式会社京都丹後企画、京都府

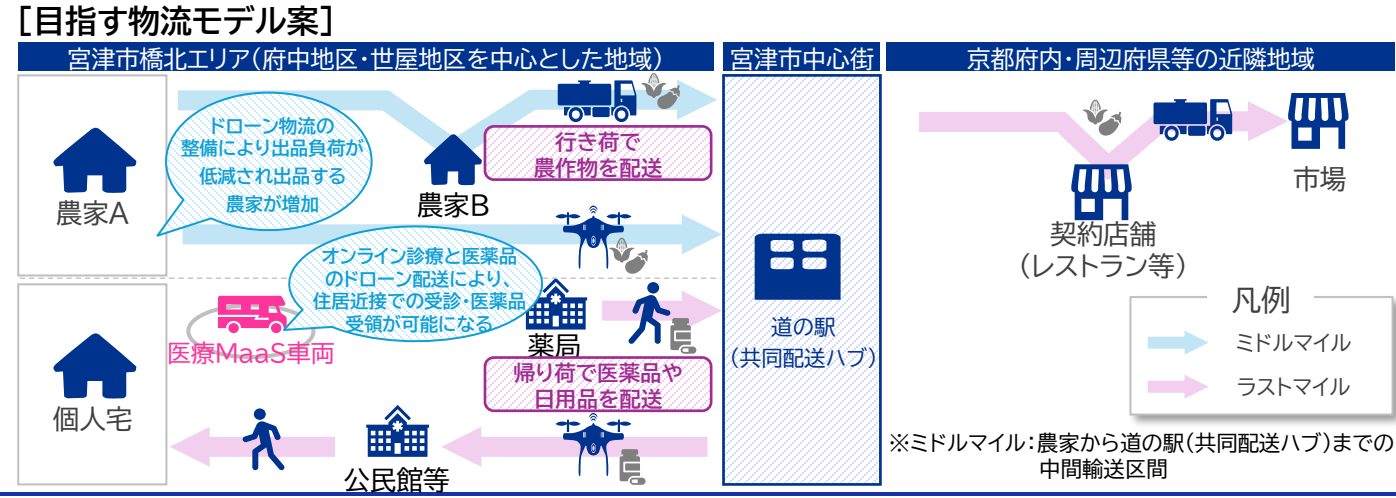
【事業実施背景】
宮津市は地理的特性(天橋立にて南北分断)や産業特性(狭小地での多品種農業等)から物流課題の顕著なエリアである
特に課題が顕著な農業では、現行の物流だけでなく道の駅拡張に伴う流通増(今後の物流)を支える仕組みを検討する必要がある

事業内容

- Point
- ①共同輸配送・ドローンの最適配置により物流維持困難な小規模農家の配送手段確保に取り組む

②道の駅を共同配送ハブとした新規物流モデル構築により、新たな出品(物流増加)を支えるキャパシティを整備する

③帰り荷として医薬品・日用品配送を行うことで物流収益性の向上・住民サービスの維持に取り組む



想定事業実施効果

- 下記の効果を見込み、R8年度は検討・調査を実施
- ①【ドライバー不足緩和】

共同輸配送やドローン活用により積載効率が向上、トラックの輸送時間総量の削減を見込む

※「トラック積載率」等をKPI候補として設定

(例)現状のトラック積載率<物流モデル変更後のトラック積載率
- ②【新規参画する事業者(農家)の増加】

新たな物流手段構築により出品する事業者数が増加し、地域の観光消費額の増加を見込む

※「配送件数(金額)増加額」等をKPI候補として設定

(例)現状の配送件数(金額)<物流モデル変更後の配送件数(金額)
- ③【生活インフラ(医療)への住民アクセス性担保】

医療MaaS・ドローンの組合せにより過疎地での診療～医薬品配送のワンストップ提供を見込む

※「配送時間・頻度」等をKPI候補として設定

(例)現状の受診・医薬品受取に要する時間>物流モデル変更後の受診・医薬品受取に要する時間